

第15回環境保全型農業推進コンクール応募事例の取組概要

I 大賞（農林水産大臣賞）

1 環境保全型農業の分野

| | | | |
|-----------------------------|-----------|---|---|
| <p>名残みどりの会 (福岡県宗像市)</p> | <p>水稲</p> | <p>19ha (会員55 戸、うち農 家12戸)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 低山の谷から広がった農地で稲、麦、大豆を中心とした農業が展開されている。宗像市全体に都市化が進展し、対象地域も周辺を大型住宅団地に囲まれており、住民と共生する農業を目指している。 ○ 水稲について化学合成農薬及び化学肥料を県基準の半分以下で栽培する技術を実践し、平成19年に集落内の全農家がエコファーマーとなり、平成21年には全水田で福岡県減農薬・減化学肥料栽培認証(化学農薬、化学肥料とも県基準の5割以下で生産)を取得している。 ○ 周辺住民と共に、平成19年に環境保全活動組織である「名残みどりの会」を設立し、農地・水・環境保全向上対策に取り組んでおり、農業者組織の農事組合が率先して交流会の実施、農村環境の整備、農業理解の促進を図っている。 ○ 都市近郊農業地帯として「水源を守る、住民の生活用水である河川を汚さない」、「安全な作物を生産する」をモットーとして集落全体で下記の取り組みを実施している。土作り・化学肥料の低減、稲わら、籾殻、米ぬか、麦わら、大豆ガラ of 土壌すきこみ、自家製堆肥の施用、土壌分析結果に基づく施肥、鶏糞、有機質肥料の使用をおこなっている。 ○ 田んぼの生き物調査、この調査を踏まえた防除回数の低減、生き物を活用した除草(スクミリンゴガイ、カブトエビ等)、畦草刈、カメムシ忌避を目的としたハーブの植栽、本田の機械除草、温湯消毒の実施、種子の薄まき、疎植、減肥による健全な稲づくりを行っている。 |
|-----------------------------|-----------|---|---|

2 有機農業の分野

| | | | |
|-------------------------------------|--------------------------|------------------------|---|
| <p>山都町有機農業 協議会 (熊本県山都町)</p> | <p>水稲、 茶、 野菜</p> | <p>96ha (123名)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ この地域では、無農薬無化学肥料による農業生産が盛んな地域として全国に知られ、20数年前からいくつかの団体が活動していた。 ○ 平成15年には、無農薬無化学肥料栽培に取り組む10組織(123名)を構成員として、環境にやさしい農業の発展と農法の普及、農村環境の保全や農家経営の確立、さらには消費者との交流を目的に本協議会が設立された。本協議会は、営利を目的とせず地域社会や行政等とパートナーシップを図りながら環境保全型農業の推進に取り組んでいる。 ○ 無農薬無化学肥料栽培技術はそれぞれの構成組織で独自の技術が確立されている。 ○ 土づくりとして、主に牛ふん堆肥や、稲わら等の粗大有機物の鋤込みを実施、有機JASに適合する資材(たい肥)についての情報交換や各組織による共同購入、水稲の後作に、緑肥と景観の向上も兼ねてレンゲを植えている。 ○ 化学肥料施用量の削減として、油かす、魚粉の投入等有機質肥料を利用、組織によっては土壌分析による適正施肥を実施、硝酸態窒素の環境負荷について研修会を開催し、環境保全のため適正施肥に努めている。 ○ 化学合成農薬の削減として、水稲及び野菜栽培では、畦マルチ、防虫ネット、フェロモントラップ、粘着坂、雨よけハウス、太陽熱消毒、粗植栽培、稲作の合鴨や鯉農法による減農薬減化学肥料栽培を実施、茶栽培では、茶樹の収穫後夏期の深刈り・浅刈りを実施している。 |
|-------------------------------------|--------------------------|------------------------|---|

II 優秀賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

1 環境保全型農業の分野

| | | | |
|--|--|------------------------|--|
| <p>中島農産 中島 宗昭 (福岡県大木町)</p> | <p>養豚 ・米 ・麦 ・アスパラ ガス</p> | <p>7.3ha</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 畜産複合経営の専業農家で、養豚は、昭和35年頃に父の代に米麦の屑を飼料の主体として繁殖豚3頭を自家交配で飼育したのが始まりであり、その後規模拡大を図り、母豚60頭の繁殖肥育一貫経営を経て、現在は、夫婦と雇用2人の労力で全農ふくれんより委託を受けたSPF(「特定の病原体をもっていない」という意味の学術用語)豚2,162頭の肥育に取り組んでいる。 ○ 堆肥を使った無農薬栽培・無化学肥料栽培等の米、麦及び野菜(米:6.7ha(うち合鴨米1.2ha)、小麦:4.2ha、アスパラガス18a)、さらには遊休農地を活用したふれあい農園15aを設けるなど、全ての農地で堆肥を活用した環境に優しい農業を実践している。 ○ 当地域では、家畜ふん尿の有効利用と畜産経営の安定を図るため、堆肥舎等の処理施設の整備・改善に取り組んできたが、畜舎排水や尿処理水によるクリーク水の窒素過多、家庭の雑排水によるクリークの汚染の問題等、地域における新たな課題も発生していた。このような状況の中で、地域環境改善を主体とした地球環境にやさしい農業の定着と地域資源(きのこの菌床栽培後のオガクズ、家畜のふん尿)を活用した資源循環型農業の実践にいち早く取り組み、堆肥を活用して化学肥料を極力減らした合鴨米等を展開され、今年で17年となる。 ○ 小麦では、製粉会社と契約して合鴨米裏作での無農薬・無化学肥料小麦を栽培しており、製粉会社が石臼で引き、小麦粉を販売している |
| <p>(有)夢咲茶屋の 生産者部会 (大分県国東市)</p> | <p>農産物全般</p> | <p>10ha (250名)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成6年より本地域の直売所である「(有)夢咲茶屋」に農産物を出荷する「生産者部会」が、直売所と一体となって環境保全型農業に取り組んできた。 ○ 平成14年、生産者部会で特に環境保全型農業に対する意識の強い農業者が「夢咲夢咲あんしん農産物生産組合」を組織し、より高度な環境保全型農業(殆どが有機農業)を実践している。生産された農産物は、(有)夢咲茶屋を通じて消費者に届けられ、「安全・あんしん農産物の地産地消」をコンセプトとする(有)夢咲茶屋の発展にも貢献している。 ○ 独自の環境保全型農業認証制度「夢咲あんしん農産物」認証制度の認証農産物は「国東町学校給食安全・安心農産物供給推進協議会」を通じて地域の学校給食にも供給されている。 ○ 生産者部会員は、土づくり等により化学肥料・化学合成農薬の節減に努めている。特に、夢咲あんしん農産物生産組合員の生産する農産物は化学肥料不使用に加え、IPMの実践等により95%が有機農産物と同等の農産物である。加えて、平成20年から、夢咲あんしん農産物生産組合はGAP、(有)夢咲茶屋はHACCPの取り組みを導入した。生産者と販売者が連携し、農産物等の商品の安全性を向上させることが、消費者からの信頼性の確保に繋がっている。 ○ 農産物のマーケティングに対しては、直売所での声かけ等により消費者動向を掴むよう努力しつつ、様々なイベントにも積極的に参加している。 |

III 優秀賞（全国農業協同組合中央会会長賞）

1 環境保全型農業の分野

| | | | |
|---|-------------|----------------|--|
| あまくさ農業協同組合花き部会 トルコギキョウ 専門部会 (熊本県天草市) | トルコ ギキョウ | 2. 6ha (8戸) | <ul style="list-style-type: none">○ 減農薬・減化学肥料栽培の取り組みが少ない花き(非食用農産物)栽培の中にあつて、いち早く平成14年に部会全員がエコファーマーの認定を取得し、その後も積極的に環境保全型農業の推進に取り組んでいる。○ エコファーマーになることで、部会員の環境への配慮など、更なる意識の向上に繋がることとなった。特に、花きでのエコファーマー取得は全国的にも珍しく、先進的事例として、各マスコミにも取り上げられ、その取り組みと意識が高く評価された。○ 循環扇や、黄色防蛾灯、防虫ネット等の導入により、病害虫の発生が少なくなり農薬の散布回数が削減できた。○ 周辺への影響としては、ELFバケットによる出荷が、天草地域の他の花(宿根カスミソウ、キンギョ草等の草花)へも導入が進み、県下全域にも波及している。また、太陽熱消毒、黄色防蛾灯、循環扇が、天草管内の他の花栽培でも導入され、循環扇については、花きのみでなく、施設園芸全般にも普及している。 |
|---|-------------|----------------|--|

IV 優秀賞（全国有機農業推進委員会会長賞）

1 有機農業の分野

| | | | |
|---------------------------|---|---------|--|
| (有)屋久島八万寿茶園 (鹿児島県屋久島町) | 茶 | 6. 53ha | <ul style="list-style-type: none">○ 有限会社屋久島八万寿茶園は、生まれ育った屋久島の自然・景観環境を維持しながら、環境にやさしく、人にやさしい産業として成り立つ農業経営を目指して、農業にゼロから取り組むとともに、有機栽培による茶業経営に昭和60年から取り組んでいる。○ 茶園は、2年かけて耕作放棄地を造成・新植し、成園化までに7年間を要した。また、製茶工場は、平成4年に完成し稼働している。○ 毎年度、園地周辺のカヤなどの山野草を刈り取り、カッターで小さく粉砕したものを、全園地に敷き草として活用し、土づくりに努めている。○ 茶の重要害虫であるクワシロカイガラムシ防除に当たっては、主に屋久島特有の年間大量に降る雨を生かしつつ、スプリンクラーかん水により卵を腐敗させる防除技術を実践しているほか、樹勢が旺盛で、病気等に強い品種の導入を積極的に進めている。○ 地域では、有機農業のトップリーダーとしての地位を確立しており、特に茶については、自身の外に既に3戸が13haで有機農業に取り組むなど他の見本となっている。 |
|---------------------------|---|---------|--|

V 奨励賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

1 環境保全型農業の分野

| | | | |
|---------------------------------------|-------------|---------------------------|--|
| <p>岳特別栽培組合 (佐賀県 有田町)</p> | <p>水稲</p> | <p>5.7ha (8戸)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲については、標高が高い場所で栽培しており、夏場の気温が平坦地に比べて低く、過剰な生育が抑えられることで、紋枯病などの発生が少なく、本田での薬剤防除を抑えた栽培に取り組んでいる(平成14年度開始)。 ○ 水稲の土づくりとして、冬季に赤クローバーを播種し、水稲移植前に緑肥としてすき込んでおり、すき込んだ後に発生する有機酸の効果により雑草の発生を抑制している。赤クローバーを栽培しない圃場では、町内のブロイラー農家から供給される発酵鶏糞による堆肥を利用し、化学肥料の削減を行っている。農薬についても、カメムシ対策として靱酢を散布するなど、天然資材を活用して化学合成農薬の削減を行っている。 ○ 農業・農村への理解の促進のため、幼稚園生や小学生を対象とした農業体験、福岡市や佐世保市などの都市住民を対象とした体験交流などの取り組みを実施している。 |
| <p>雲仙市にこまる 生産組合 (長崎県雲仙市)</p> | <p>水稲</p> | <p>113.3ha (188戸)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成17年より、水稲における化学肥料・農薬の大幅低減への取り組みを試験的に取り組み、平成19年度に全組合員が、エコファーマー認定及び長崎県特別栽培農産物認証を取得し、農地・水・環境保全向上対策(共同活動営農活動)に取り組んでいる。 ○ 当生産組合員を中心に地域全体で水田での浅水代かき、有機質資材の利用などの環境負荷低減に資する取り組みを行う一方、組合員は水稲の種子消毒は生物農薬を利用したり、発生予察情報を利用した適期防除による化学農薬の低減や有機質肥料を利用した化学肥料低減を実現している。 ○ 組合の栽培の中心となる吾妻・愛野地域は諫早湾干拓調整池に隣接した地域であり、その水質保全対策が強く求められている中、当生産組合が中心となり、水田の浅水代かきによる濁水管理や減化学肥料による環境負荷低減対策を強く意識した活動を展開し、環境保全型農業の取り組みを強くアピールしている。 |
| <p>宜野座村エコ 野菜研究会 (沖縄県宜野座村)</p> | <p>葉野菜等</p> | <p>0.4ha (5戸)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 花卉類の生産には品質安定のため農薬が欠かせない。そのため、農薬による健康被害が懸念された。そこで、安心安全な農作物を栽培し、村全体に低農薬・低化学肥料栽培の必要性を訴えたいと、平成18年11月に3人の花卉農家が、宜野座村エコ野菜研究会を設立し、花卉栽培を行いつつ葉野菜の高設ベンチ栽培に取り組み始めた。 ○ 現在の当研究会の会員数は5名、栽培品目はベビーリーフ、ミズナ、ベガナ、カラシナ、テゴロナである。平成18年度からは、安全・安心な農産物生産と環境保全型農業への取組みの一環としてエコファーマーの認定に取り組んでおり、これまでに4戸の農家がエコファーマーに認定された。さらに、平成20年度までに4戸の農家が5品目で沖縄県特別栽培農産物の認証を取得した。 ○ 高設ベンチ栽培に取り組んでおり、年に8作葉野菜を栽培している。高設ベンチ内の用土は海砂を主体とし、肥料は自家製のボカシ肥料を用いて有機質肥料主体の施肥設計により、化学合成由来の窒素成分の9割減に取り組んでいる。病虫害対策としては、防虫ネットを使用し、害虫の侵入を防いでいる。また、収穫後には栽培床を水で満たし、殺虫に取り組んでいる。現在、化学肥料や化学合成農薬をほとんど使用せず、葉野菜を栽培している。 ○ 当研究会の取組を契機とし、宜野座村が「有機の里宜野座村推進協議会」を立ち上げ、基本構想・基本計画を策定した。村独自で取り組む「宜野座村エコ農産物ロゴマーク」の使用認証も受けている。 |